

「このままで大丈夫？」を物流改善へ ミルクランで実現する配送集約の取り組み

2026年8月25日

省人化

輸配送



近年、物流需要の高まりに伴い、物流業界では物量増加や人手不足など、さまざまな課題への対応が求められています。

いまは大きな問題が起きていなくても、「このままのやり方で対応し続けられるだろうか？」と感じたことはありませんか？

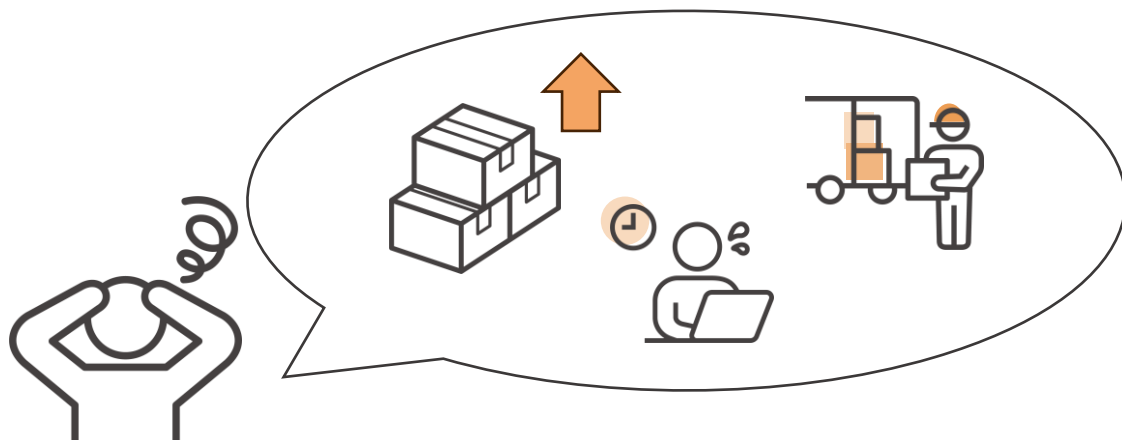
このような課題は、業務のやり方・仕組みを見直すことで、大きな改善につながる可能性があります。

今回ご紹介するのは、ミルクランの仕組みを用いた改善事例です。

ミルクランとは、発注者の手配した車両で複数のサプライヤー（部品メーカー）を巡回し、荷物をまとめてお客様の工場に納品する輸送方式です。これにより、分散していた作業の集約化、コストの削減が期待できます。当社ではこの仕組みを「お迎え便」としてご提案しています。

本コラムでは、「お迎え便」の導入から運用に至るまでのプロセスを順を追って解説します。

「ミルクランという言葉は聞いたことがあるものの、自社での導入方法がイメージできない…」このような悩みをお持ちの方も、当社での取り組み事例をもとに物流改善のイメージを膨らませてみませんか？



目次

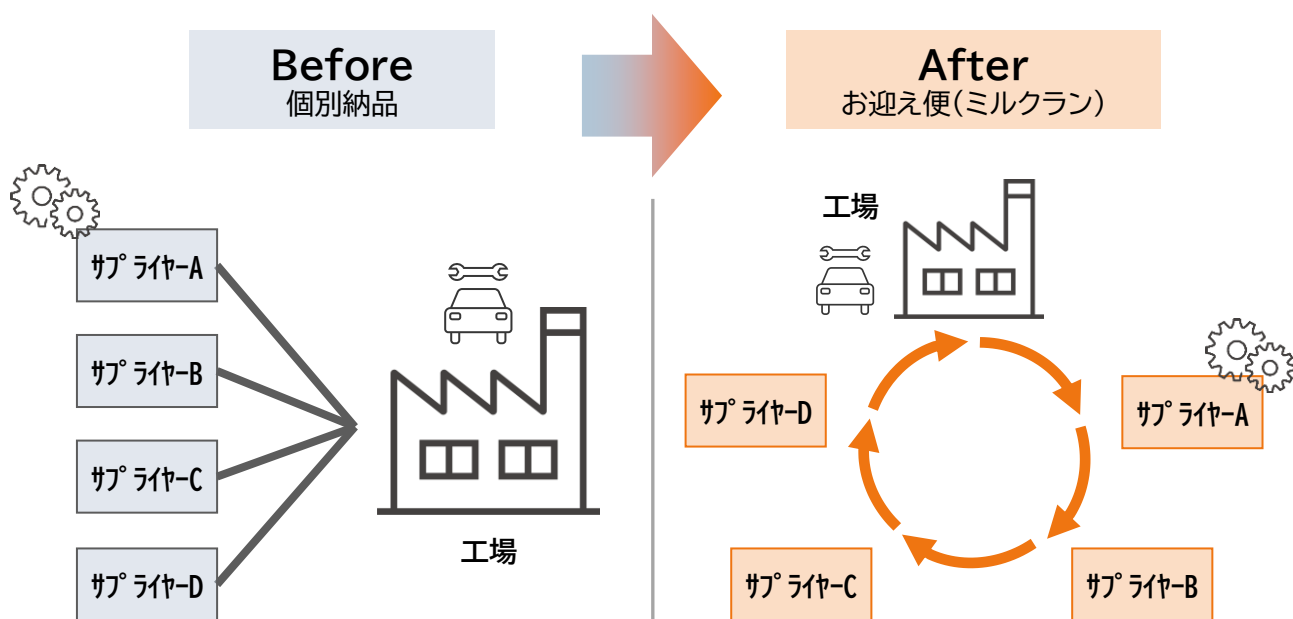
1. 「お迎え便」導入時の背景
2. 導入までの取り組み
 - ① 最適なルート設計
 - ② 導入から運用までの支援
 - ③ 導入後も継続的に改善
3. 改善効果
4. 終わりに

1. 「お迎え便」導入時の背景

当社の事業所Aでは、地域に根差した輸送ネットワークを強みに、お客様ごとの要望に応えることで売り上げを伸ばしてきました。

しかし近年は、法改正への対応や燃料費の高騰などにより輸送コストが上昇。コスト増加への対応が大きな課題となっていました。そこで当社は、運賃改定に頼るのではなく、輸送の効率化によってサービス品質を維持する方法を模索しました。

そこで着目したのが、複数のサプライヤーを巡回して荷物を集荷し、まとめてお客様の工場に納品する「お迎え便(ミルクラン)」という輸送方法です。既存の輸送ネットワークを活用しながら、輸送効率を高められるため、当社の強みを生かしつつ課題解決を図る有力な選択肢となりました。



2. 導入までの取り組み

配送の集約化を実現するためには、単に使用する車両をまとめるだけでは不十分です。輸送ルートや物量、納品時の対応など現場ごとの条件を踏まえた仕組みづくりと、導入後も継続して改善していく運用体制が必要不可欠です。

本事例では、構想段階から運用支援さらには、導入後の継続的な支援も取り組み、課題解決を進めていきました。



① 最適なルート設計

まずは対象となるサプライヤーにアンケートを実施し、出荷頻度や出荷量、納品時間帯などの実態を把握しました。

その結果をもとに、集約に適した輸送と個別対応が必要な輸送を整理し、それぞれの前提条件を明確化。その上で、自社の輸送ネットワークを最大限に活用しながら、サプライヤーの立地や出荷特性を踏まえたミルクランルートを設計しました。

効率性だけでなく、実際の運用のしやすさも考慮することで、現場で継続して活用できる仕組みづくりを目指しました。



② 導入から運用までの支援

「お迎え便」による物流改革の成功には、工場・サプライヤー・当社など関係者の理解と協力が欠かせません。これまでの取り組みでは、サプライヤーへの負担増や費用分担の難しさが障壁となり、運用の定着には至りませんでした。

そこで当社では、各社の負担とメリットを整理するとともに、関係者との対話を重ねながら共通認識を合わせ、改革の方向性をそろえていきました。

さらに、集荷時間や納品タイミング、荷物の受け渡し方法などの運用ルールについて、小規模でのトライアルを実施。現場の声を反映しながら改善を繰り返し、無理なく運用できる体制を構築しました。

机上の計画で終わらせることなく、現場で実際に“回り続ける仕組み”として定着させています。



③ 導入後も継続的に改善

物流改善は、仕組みを導入して終わりではありません。導入後も運用状況を確認しながら課題に対応し、効果を維持・向上させていくことが重要です。

当社では、調達物流から生産物流まで携わってきた経験を活かし、ミルクランの運用開始後も現場の状況を確認しています。集荷状況や納品時間、作業負担などの情報を継続的に収集し、必要に応じてルートや運用方法の見直し、物流全体の最適化を支援しています。

物流環境や荷物の動きは日々変化します。
だからこそ関係者と連携しながら運用を継続的に確認し、
持続的な効果につながる仕組みづくりに取り組んでいます。



3. 改善効果

「お迎え便」の導入により、工場側だけでなくサプライヤー側の輸送費も削減でき、サプライチェーン全体で年間3千万円以上の効果を創出しました。

また、当社が実施した綿密な輸送・運用設計が取り組みの成功要因として評価され、さらなる「お迎え便」サービス導入に向けたご相談もいただいています。

本取り組みは、工場・サプライヤー・当社の三者それぞれに
メリットをもたらす好事例となりました。



4. 終わりに

本コラムでご紹介した「ミルクラン」を活用した配送の集約化は、物流コストの削減だけでなく、荷受け業務の効率化や車両手配業務の負荷軽減にもつながる取り組みです。

物流を取り巻く環境が変化し続けるなか、現在大きな課題が発生していなくても、一度業務や輸送の「前提」を見直してみることで、新たな改善の可能性が見えてくるかもしれません。

当社では、お客様の物流課題に合わせた改善提案を行っています。
物流業務の見直しをご検討の際は、ぜひお気軽にご相談ください。



＼物流のお悩み、MDロジスにお任せください／



お問い合わせは[こちら](#)